

どろんどろんと コミュニケーション



石神さん女子マラソン

Vol.119

石神さん女子マラソンが2月11日、盛大に開催されました。お天気もこれ以上ないというくらい素晴らしい日で、市外県外から多くの女性が参加してくれました。ハーフマラソンだけに若い女性が多くて、華やいだ雰囲気は南鳥羽にあふれたように思いました。

実は、以前から鳥羽でもマラソン大会を開催してはという声がありました。実行すれば、結構な数のランナーが来てくれることは想像できましたが、開催準備など、今、手いっぱい市の職員ではまかないきれないと考えていました。それを民間でスタートさせてくれた長岡地区の皆さんの実行力には、まさにビックリポイントです。女性の願いをひとつ

だけ叶えてくれるということ、年間20万人を超える参拝者がある人気の石神さんを前面に出したアイデアと、地元でとれる美味しい食材の振る舞い、それに相違だけでなく長岡地区全体で協力する体制という三位一体が、今回の大盛況を生み出したと思います。

加えて、ウォーキングの大会もあって、こちらは男性も参加できましたので、私も楽しんで歩きました。2年程前から鳥羽をウォーキングの街にしようということで、青峯ウォーキングなどを実行して来ましたが、しかし思ったほどウォーキングが伸びてきていないように感じています。高齢化社会の中で健康に過ごす

為に、最も良いのは歩くことだという考えは的を得ていると、私は今も考えています。石神さん女子マラソンでもその趣旨に賛同して、協力していただけたことはとてもありがたいことでした。

今回のウォーキングのコースには昔、駆逐艦「春雨」が遭難した菅崎園地も含まれていました。県外からの参加者と思われる方に、この遭難の話とともに百年以上の永きにわたって殉難者に対して慰霊祭が行われていることを説明しました。日頃から思うのは、この「春雨」にしても、盛大に行われるクジラ祭りにしても、そして新たに始まった石神さん女子マラソンも、この地域の人達の強力な団結無くして到底できないことであるということなのです。

南鳥羽は今、道路も改良が進んできました。石神さんで元気があります。消防署の出張所ができて安心が増します。これらも全て、みんなで団結して粘り強く頑張つて来た結果だと思えます。これからも、元気な鳥羽の牽引力のひとつとして期待するとともに、石神さん女子マラソンが未来に向け続いていってほしいものです。

矛盾



Vol.146

昔、中国の楚の国で「どんな盾も突き通す矛」と「どんな矛も防ぐ盾」を売っていた男が、客から「その矛でその盾を突いたらどうなるのか」と問われ、返答できなかったという話。もし矛が盾を突き通すならば「どんな矛も防ぐ盾」は誤り。もし盾が矛を突き通すならば「どんな盾も突き通す矛」は誤り。したがって、どちらを肯定しても辻褄が合わないといった故事成語です。

核兵器のない世界を実現するために最大の障害になっているのは、核の抑止（核の傘）です。お互いの国が、核兵器を保有していることで牽制し合うといった状況により使用をしないということになります。それは「どんな盾も突き通す矛」対「どんな盾も突き通す矛」による危ういバランス

又によるにらみ合いです。戦争は最大の人権侵害です。戦後70年、長崎・広島の子供たちも弾投下以降、各国の指導者は、幸いにも核兵器の使用は行っていません。しかし、今後、70年使用されないといった保障はどこにもありません。

「自国を守るためなら他国の罪もない大人や子供たちはすべて抹殺」「戦争で負けるのなら道連れ」といった指導者や、世界の仕組みを壊そうとする過激派が入手し使用するかもしれない。

人類が絶滅する可能性がある核兵器による戦争。現在、核保有国は8か国ですが、核保有による抑止や外交手段に利用するなど、拡散が懸念され国連は、核保有国はさらに増えると予想しています。

核兵器のない世界を実現するためには、核兵器の廃棄しなくてはなりません。「どんな盾も突き通す矛」に対抗できるのは「矛」や「盾」ではなく「矛」を捨てることではないでしょうか。

